

# アイ・ウェイウェイ展 ― 何に因って？

2009年7月25日〔土〕 - 11月8日〔日〕 森美術館（六本木ヒルズ森タワー 53 階）

## 現代中国で最も刺激的なクリエイターの挑戦

森美術館は、2009年7月25日（土）から11月8日（日）まで、「アイ・ウェイウェイ展―何に因って？」を開催します。アイ・ウェイウェイ〔艾未未〕は、美術、建築、デザイン、出版など多岐にわたりクリエイティブな活躍を続けている中国人のアーティストです。とくに、2007年の「ドクメンタ12」における1001人の中国人が参加した《童話》プロジェクト、2008年北京オリンピック・スタジアム「鳥の巣」の設計におけるヘルツォーク&ド・ムーロンとのコラボレーションなどによって、その国際的な評価は確実なものとなりました。アイの作品は、これまでもアートや文化と社会の関係、あるいは社会全体における個人の存在などに向けられた深い洞察を投げ所としてきましたが、近年では、1999年以降関わってきた建築プロジェクトからも距離を置き、多様な表現ジャンルの枠組みに限定されない曖昧な領域のなかで、文化、歴史、政治、伝統といった人間の本質的な課題をさらに探究する方向に向かっていくように見えます。

本展は、2000年以降の作品を中心に、新作5点を含む32作品を展示する過去最大級の個展となります。サブタイトルの「何に因って？」は、アイ・ウェイウェイにとって現代美術への入口となったジャスパー・ジョーンズの同名の作品に由来しますが、アイの制作の背景に編み込まれた美術的、文化的あるいは歴史的な文脈の相互関連性が、展覧会を通して紐解かれることを象徴的に示唆しています。会場では、立体、写真、ビデオ、サイト・スペシフィックなインスタレーションなどアイ・ウェイウェイの多様な創造活動を紹介し、「基礎的な形体とボリューム」、「構造とクラフトマンシップ」、「伝統の革新と継承」といった観点から、表現メディアを越えた「クリエイター」としてのアイ・ウェイウェイの意図や態度の本質を浮き彫りにします。

最初のセクション「基礎的な形体とボリューム」では、ミニマルアートを想わせる一連の立方体、正二十面体などの立体作品と中国茶のブロックによる新作インスタレーション、都市としての北京の定点観測をした映像作品を展示します。また「構造とクラフトマンシップ」では、シンプルな形体に驚くべき工芸技術が隠された《地図》シリーズ、1997年以降続けられている《家具》シリーズ、そして美術・建築・デザインの領域を横断する未発表の立体作品《ムーンチェスト》を展示。最後のセクション「伝統の革新と継承」では、新石器時代、漢や唐王朝期の壺をモチーフにしたシリーズ、清王朝期の建築物のパーツを再構成したインスタレーションなどを展示します。さらに、ソーシャル・スカルプチャーとも呼べる「ドクメンタ12」における《童話》プロジェクトのドキュメント映像（2時間半）に、本展会場にあわせた建築的なインスタレーション、新作《シャンデリア》などが加わります。

急速な経済発展、社会的変革の渦中にある中国に身を置きながら、独自の視点で現代を過去と繋ぎ、個人を世界と繋ぐアイ・ウェイウェイ。現代中国で最も刺激的なクリエイターが世界を見つめる眼差しが見据えるその先の未来を、展覧会を通して覗いてみませんか。

※ 本展は、「MAMプロジェクト009：小泉明朗」展（場所：森美術館ギャラリー1）と同時開催となります。

主催：森美術館

協力：ニコラ・フィアット

会場：森美術館 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 53 階

開館時間：10:00 - 22:00 | 火 10:00 - 17:00 | 9/22（火）、11/3（火）は 22:00 まで \*いずれも入館は閉館時間の 30 分前まで 会期中無休

入館料：一般 1,500 円、学生（高校・大学生）1,000 円、子供（4 歳 - 中学生）500 円

\*表示料金に消費税込 \*本展のチケットで「MAM プロジェクト009：小泉明朗」展、展望台 東京シティビューにも入館可

お問い合わせ：TEL: 03-5777-8600（ハローダイヤル）

お問い合わせ 広報部 担当：渡邊、田村 TEL: 03-6406-6111 FAX: 03-6406-9351 EMAIL: pr@mori.art.museum  
Website: www.mori.art.museum 〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館

PRESS RELEASE  
プレスリリース



《中国の地図》2004年  
清王朝時代の寺院に使用されていた鉄木(1644-1911)  
高さ51 cm、直径200cm  
photo courtesy of the artist

MORI ART MUSEUM

MORI ARTS CENTER

## 〈アイ・ウェイウェイ【艾未未】プロフィール〉



〈漢王朝の壺を落す〉1995年  
モノクロ写真（三部作）  
photo courtesy of the artist

1957年、現代中国を代表する詩人アイ・チン【艾青】を父に北京で生まれ、1978年に北京電影学院（フィルムアカデミー）に入学。1979年および81年には文化大革命後の中国における初の前衛芸術集団「星星画会」の展覧会に参加。その後まもなくニューヨークに渡り、1993年に帰国するまで12年間を米国で過ごす。その時期にアイ・ウェイウェイがアメリカの現代美術やデュシャンなどヨーロッパのモダニズムから受けた影響は、当時作品に明らかである。帰国後は、出版活動の傍ら、チャイナ・アート・アーカイヴ&ウェアハウス（CAAW）の創設にアーティストティック・ディレクターとして参画、以降中国の若手アーティストの支援を続ける。2000年には第三回上海ビエンナーレと同時期に「不合作方式（FUCK OFF）」展をキュレーション。作品の極端な過激さが物議を醸す伝説的な展覧会となった。一方、1999年の自宅兼スタジオの設計を契機に建築分野での活動を広げ、以降6～7年の間に50を超える建築系プロジェクトに携わる。自宅兼スタジオのある草場地（ツアオチャンディ）には、現代アートのためのギャラリーおよびスタジオ用ユニットを設計。大山子（ダーシャンス）にある「798芸術地区」に続く第二のアートゾーンとして注目されている。

2000年以降は、シドニーのシャーマン現代美術財団およびキャンベルタウン・アーツ・センターの個展（2008）で網羅的に過去の作品が紹介されたほか、メアリー・ブーン・ギャラリー、フローニンゲン美術館、ベルリン・クンストハーレでも個展が開催されている。また、「第11回ヴェネチア・ビエンナーレ建築展」、ヴェネチア（2008）、「第8回リバプール・ビエンナーレ・インターナショナル」、リバプール（2008）、「ドクメンタ12」、カッセル（2007）、「第5回アジア・パシフィック・トリエンナーレ」、クイーンズランド、オーストラリア（2006）、「接触地帯」、第15回シドニー・ビエンナーレなどの国際展のほか、「麻雀：シグコレクションの現代中国美術」（2006年、ベルリン、ザルツブルグ、サンフランシスコなどを巡回）など世界各地で中国の現代美術を紹介するグループ展に参加している。

## 〈出品予定作品〉＊一部



〈1トンのお茶〉2005年  
圧縮した茶1トン、木製の土台  
100 x 100 x 100 cm  
photo courtesy of the artist



〈1メートルの立方体テーブル〉2006年  
花梨 100x100x100cmのテーブル13台  
photo courtesy of the artist



〈コカ・コーラの壺〉1997年  
唐王朝期の壺（206BC-24AD）、塗料  
24 cm, Ø18 cm  
photo courtesy of the artist



〈フォーエバー〉2003年  
自転車42台  
高さ275 cm、直径450 cm  
photo courtesy of the artist



〈一杯の真珠〉2006年  
磁器、淡水真珠  
高さ各43 cm, Ø100 cm  
photo courtesy of the artist



〈コーナーテーブル〉2006年  
明王朝後期もしくは清王朝初期のテーブル（1468-1911）  
116 x 155.5 x 155.5 cm  
photo courtesy of the artist

掲載の画像を含む最新のプレス画像は、森美術館ウェブサイトにて申請いただけます。

お問い合わせ 広報部 担当：渡邊、田村 TEL：03-6406-6111 FAX：03-6406-9351  
EMAIL：pr@mori.art.museum Website：www.mori.art.museum  
〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館

PRESS RELEASE  
プレスリリース

MORI ART MUSEUM

MORI ARTS CENTER